

第3章 計画の目標と施策体系

第一 計画の目標

1 目標 ー 本計画において子どもにもたらしたいこと

複合的な情報環境を活用するために必要になる
本を読むことに前向きな姿勢と、
多様な情報環境を活用するスキルを育む

複合的な情報環境において求められる姿勢とスキル

子どもたちは、図書館や書店で気軽に本を手にとることができ、またインターネットを通じて様々な情報に接することもできます。このように豊かな情報環境は、豊かであるがゆえに選択肢が多く、適切に活用することが難しくもあります。ただ、これからの社会において主体的に思考し、行動する上では、この**複合的な情報環境**を活用できるようになることが不可欠です。

そのため本計画においては、施策・事業を通じて「本を読むことに前向きな姿勢」と「多様な情報環境を活用するスキル」を育むことを目指します。

本を楽しむことや読むことに前向きな姿勢～読書興味～

本を読むことに前向きな姿勢は「**読書興味**」とも言え、これまで目指してきた読書習慣の基礎でもあります。つまり、本や事典・図鑑はもとより、インターネット上の様々なコンテンツも含めて、「読むこと、知ることを楽しい」と思い、前向きになる姿勢」です。このような「**読書興味**」が育まれていれば、現在、本を読んでいるかどうかにかかわらず、何か新しい考え方を知ろうとしたり、分からないことがあったときに調べようとする行動ができると考えます。

多様な情報環境を活用するスキル～読書能力～

その上で、多様な情報環境を活用するスキル、すなわち「**読書能力**」も必要となります。「**読書能力**」には、文章を正しく読むという読解力も含まれますが、さらに広く、「本を読み込むことができ、本や事典・図鑑、そしてインターネットやSNS等の情報メディアを活用し、必要な知識・情報を適切に得ることができるスキル」です。読書活動をさらに深化させ、いかに読むのか、そして何を感じ、知ることかという点を重視して、この「**読書能力**」の育成を目指します。

読書興味と読書能力をともに育む

子どもが読書を楽しむなかで、また情報環境を活かした学びを続けるなかで、「**読書興味**」と「**読書能力**」を補い合うかたちで育むことこそが、複合的な情報環境を活用するために必要なプロセスだと考えます。そして、この姿勢とスキルこそが、これからの社会を生きる子どもたちが身につけるべき**新たな(読書習慣)**なのです。

本等を通じて、自ら主体的に思考する人に育つ



読書興味と読書能力の展開イメージ

2 対象別目標

本計画では、成長過程に応じた段階的な取り組みを進めることを前提として、世代等に応じて対象設定を行い、対象別目標を次のように掲げます。

未就学児

未就学児の頃は、言葉に触れ、自ら言葉を用いながら、他人や環境にかかわっていく時期です。周囲の大人との親密な関係のなかで絵本の読み聞かせをしてもらうことで、本が楽しいものであると感じ、また物語に関心を持ち、自ら読もうとするようになることが読書興味の芽生えです。

さらに、自分が見聞きしたものを図鑑等で確認したり、友だちや大人とのかかわりのなかで自分の考えや感じたことを言葉で表現し、伝えようとするのは、読書能力へとつながっていく体験です。

このように、本で物語を読むなかで、身の回りの事物や出来事に触れ、言葉として定着しようとするなかで、読むこと、そして知ることが楽しいと思い、自ら実践しようとするようになることを目指します。

小学生段階(義務教育学校前期課程に通う児童を含む)

小学生段階の時期は長く、大きく変化を遂げていく時期です¹⁵。そのため、低学年、中学年、高学年のそれぞれにおいて適切に読書興味を引き出し、また情報環境にも段階的に接する体験が必要です。

読書興味の視点では、低学年においては、読むことや何かを知ることを楽しみと感じるとともに、一人で読むなかで一冊の本を読み終えることができたという達成感を得ることも楽しさにつながります。ただ、学年が上がるにつれて読み終えることのできない子どもも増えてくることから、一人ひとりに応じた対応を通じて、それぞれの楽しさを感じるようにすることが大切です。それとともに、高学年になるにつれて、本から得た知識・情報が何かに役立つということを体験することを通じて、新たな楽しさに気づくようになることも、読書興味の展開においては重要です。

一方、読書能力については、本が役に立つことを体験した上で、実際の学習等に必要な知識・情報を得るための手法を学ぶことが必要です。また、図書館という読書環境の活用も体験的に身につけていくことも不可欠です。

こうして、複合的な情報環境を活用する姿勢とスキルの基礎となる読書興味と読書能力を形成することを目指します。

中学生段階(義務教育学校後期課程に通う生徒を含む)

中学生段階における読書興味に関しては、アイデンティティが形成される時期であることから、本を通じて自分の考えを形成し、また他人や社会に対する認識を深めるような読書が期待されます。そのなかで、本の内容に共感したり反感を覚えたりしながら本に対する信頼を高めていくことが、読書興味を高めることにつながります。

そのためには、それぞれの本を深く読み込むという読書能力も必要です。また、自分が求める本を選ぶということも読書能力のひとつと言えます。さらに中学生の読書能力では、インターネット等の情報メディアの基礎的な活用方法を身につけるとともに、試行錯誤しながら利用することで知識・情報を取捨選択できるようになることも必要です。

¹⁵ 「教育基本法」では、義務教育について、「義務教育として行われる普通教育は、各個人の有する能力を伸ばしつつ社会において自立的に生きる基礎を培い、また、国家及び社会の形成者として必要とされる基本的な資質を養うことを目的として行われるものとする。」と記載されています。

このように中学生段階においては、小学生段階において形成された読書興味と読書能力の基礎の上で、知識社会に主体的にかかわろうとする姿勢を育むとともに、そのための応用的なスキルを高めることを目指します。

高校生世代

高校生世代は、自立と社会参画への準備を始める時期であり、また実際に社会参画を体験する子どもも増えてきます。つまり、知識・情報の受け手から、知識・情報を活かして行動する主体へと転換する時期とも言えます。

読書興味の観点では、将来の自分のあり方や生き方につながる読書ができることが期待されます。また、本にかぎらず、インターネット上の文章、映像や音声等、様々なコンテンツを対象とした能動的な読書活動も必要となります。そして、社会参画を結びつけた読書活動への姿勢が形成されていくことが望まれます。

一方、読書能力に関しては、複合的な情報環境をより実践的に活用できることが求められます。特に一次的に得た知識・情報については、それが本に書かれていたことであっても批判的に受け止め、複数の情報メディアを組み合わせることで、知識・情報の正確性を確認しようとするのが大切です。また、自分の知り得た知識・情報を自分なりの言葉にして他人と共有し、集団的な行動に移そうとする姿勢を育むことも必要です。

このように高校生世代は、社会への参画の準備として、複合的な情報環境を活用する姿勢とスキルを高め、時には実際に社会へと参画することで、知識社会に主体的にかかわる個人となっていくことを目指します。

大学生世代

大学生世代は高校生世代と共通していますが、本計画においては、子どもの読書活動を促進するための担い手となることを期待しています。自ら発信者となって子どもたちの読書興味を高め、また若者ならではの観点から子どもの関心を喚起する読書機会をつくることが望まれます。

大学生世代については、区立図書館が核となって地域の大学生等をつなぎ、読書活動の若い担い手を増やすことを目指します。

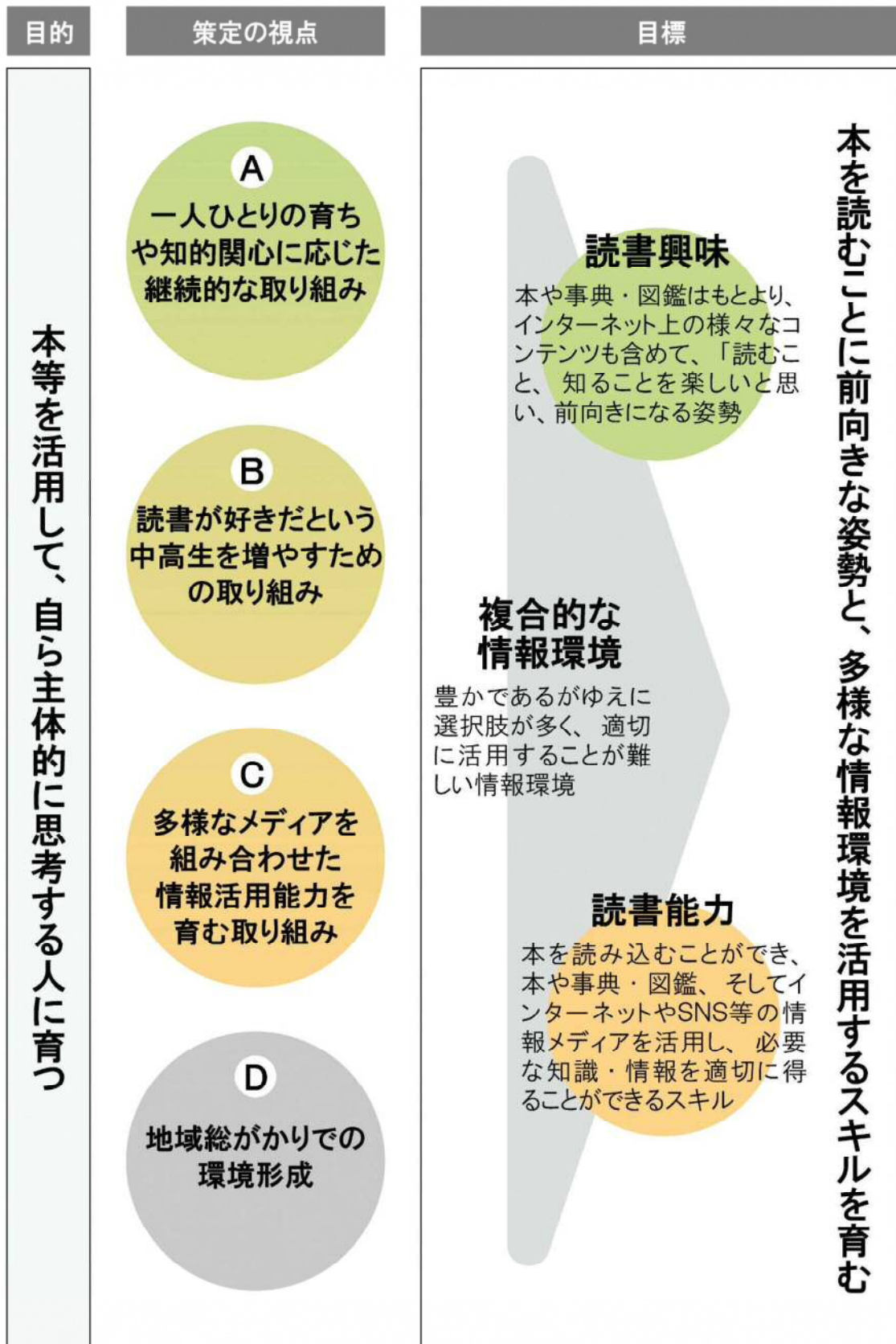
読むことに困難さがある子ども


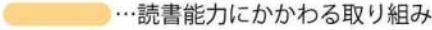

世代別の対象にくわえて、年齢を横断するかたちで、読むことに困難さがある子どもを対象として捉えます。

読むことの困難さとは、視覚障害による「文字が見えにくい」状況のほか、「文字を見ることができるが、意味をつかみにくい」という識字障害や学習障害、さらには「聞こえづらい、聞こえにくい」という聴覚障害、「(介助がないと)移動しづらい」ために読書環境にアクセスしにくいこと、さらには外国人児童・生徒が「日本語を読むことに困難さがある」も含まれます。また、「本を読むのが苦手」だったり、「読書が嫌い」な子どものなかに、「読むことに困難さがある」子どもが含まれている可能性についても考慮しなければなりません。

このような困難さの違いに応じてニーズや課題を把握することで、「一人ひとり」の子どもが直面している困難さに配慮し、子ども自身による読書手段の選択を支援することを目指します。そして、読書活動への動機づけを行いながら、困難さをサポートする人や団体を知り、「読むこと」に関してより活発な行動が行うことができるように育つことを目指します。

第二 計画の体系



対象	施策・取り組み
未就学児	<p>施策1 本に触れ、言葉・物語への関心を高める</p> <ul style="list-style-type: none"> ①子どもにとって身近な読書環境の充実 ②家庭での読書活動の推進 ③自然や社会などへの関心を高める図鑑等の活用 ④あらゆる子どもに対する読書への動機づけ
小学生段階	<p>施策2 本に親しみ、知るための基礎を形成する</p> <ul style="list-style-type: none"> ①様々な本に出会う機会の提供 ②本を通じたコミュニケーションの活性化 ③本等や学校図書館を活用した調べ学習の促進 ④読むことの困難さに応じた読書手段と機会の提供
中学生段階	<p>施策3 本等を自ら読もうとする姿勢と調べる力を育む</p> <ul style="list-style-type: none"> ①子どもの嗜好や流行に応じた蔵書の形成 ②子ども同士のすすめ合いを通じた読書の推進 ③複合的な情報環境を活用した調べ学習の深化 ④読むことの困難さに応じた読書手段と機会の提供
高校生世代	<p>施策4 情報環境を活用し、社会にかかわる力を養う</p> <ul style="list-style-type: none"> ①自立や社会参画につながる蔵書の形成 ②読書活動の世代間での循環の促進 ③読書能力を確立する学びの機会 ④読むことの困難さに自ら対応することに対する支援
大学生世代	<p>※上記の取り組み①～④の網掛けの意味は以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none">  …読書興味にかかわる取り組み  …読書能力にかかわる取り組み  …読むことの困難さにかかわる取り組み